

南山大学学生

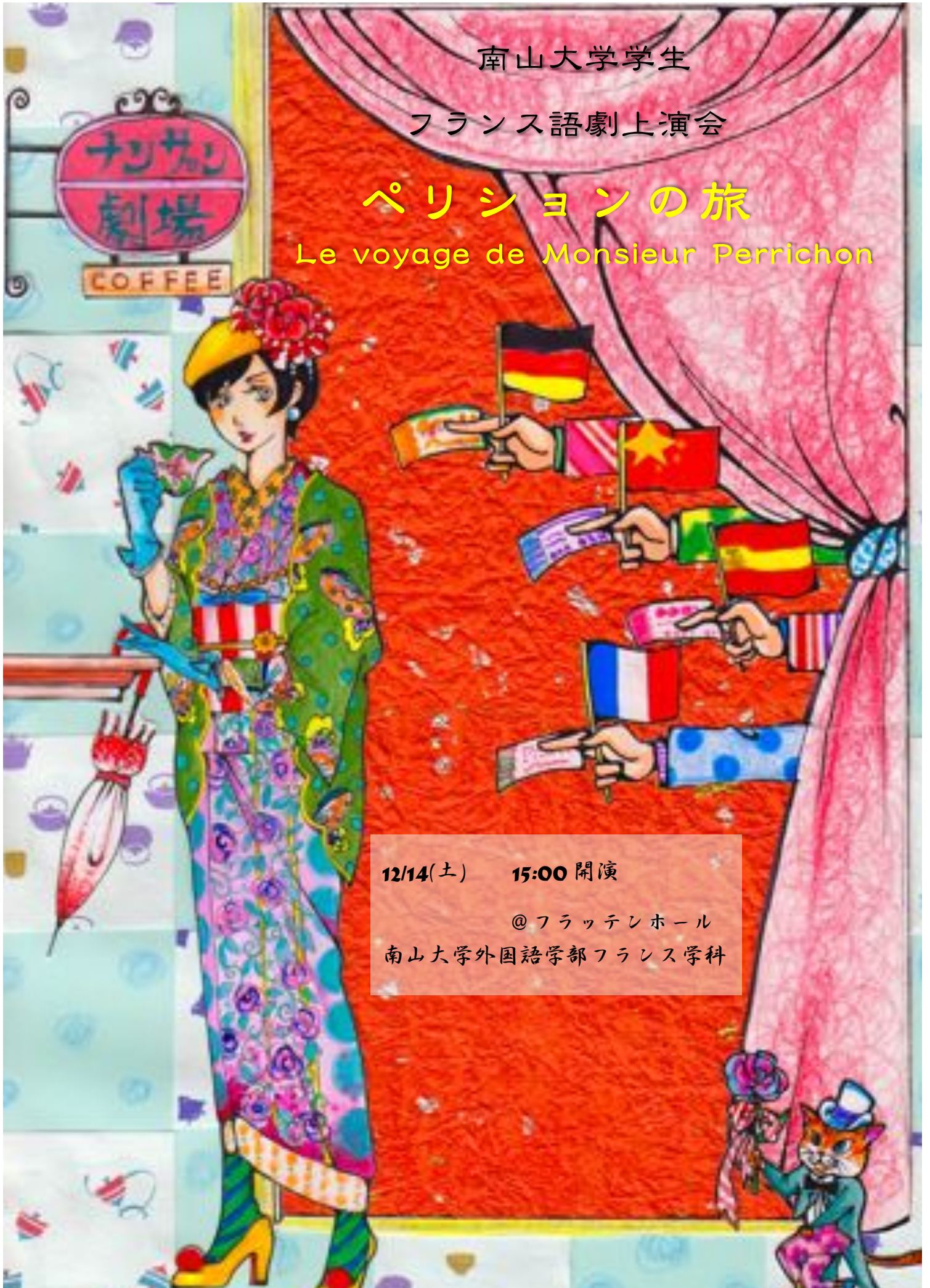
フランス語劇上演会

ペリシヨンの旅

Le voyage de Monsieur Perrichon

12/14(土) 15:00 開演

@フラッテレホール
南山大学外国語学部フランス学科



外国語学部長からのご挨拶

今年 2013 年は、外国語学部創設 50 周年という節目の年にあたります。外国語学部では、学部創設 50 周年を祝うために、「未来につなぐ 50 周年」をテーマに、記念のシンポジウム、講演会、コンクール、コンテスト等を開催しています。
(<http://depts.nanzan-u.ac.jp/ugrad/GAIKOKUGO/fs50th/>) その中でも、この節目の年に、かつて本学で行われていた「語劇祭」の復活ともいえる語劇フェスティバルを学部創設 50 周年記念事業の一環として開催できますことを、大変嬉しく思います。

聞くところによりますと、南山大学では大学設立以前（外語専門学校時代）から「語劇祭」が開催され、ドイツ語劇、英語劇、スペイン語劇、フランス語劇、中国語劇といった語劇が上演されていたようです。よく「語学の南山」と言われますが、コミュニケーションの道具としての言語の 4 技能、すなわち、聞く、話す、読む、書くといった力の総合力が要求される語劇の上演は、外国語教育の「実習」という視点から考えた場合、たいへん重要な意味を持っていると言えます。そしてまさにそこに語劇の伝統を守り続けていくということの意義が見えてくるのではないのでしょうか。

今年の語劇フェスティバルは、ドイツ学科の『ドン ジュアン 或いは幾何学への愛』（11 月 24 日）がフェスティバルの幕開けを飾り、それにフランス学科の『ペリシヨンの旅』（12 月 5 日、14 日）、アジア学科の『愛の選択』（12 月 7 日）、スペイン・ラテンアメリカ学科の『あわれな嘘つき亭主』（12 月 11 日）と続きます。今までご自分に関係の深い外国語、あるいはごひいきの語劇だけを鑑賞してこられた方達も、せっかくの機会ですので、語劇フェスティバルの今年は、是非ともすべての公演をご覧いただけると幸いです。

最後に、出演者の皆さんはもとより、裏方で公演を支えてくれた人達、そしてたくさんの方の情熱を持って指導して下さった先生方にも感謝しつつ、挨拶の言葉とさせていただきます。では、最後までお楽しみください。

外国語学部長
鈴木 達也

フランス学科長からのご挨拶

本日は、南山大学外国語学部フランス学科学生有志によるフランス語劇『ペリシヨンの旅』（Voyage de Monsieur Perrichon）の上演にお越しいただき、まことにありがとうございます。

フランス学科では2年前よりフランス語劇の上演を始め、2011年度の『クノック』（Knock）、2012年度の『ザモールとミルザ』（Zamore et Mirza）に続いて今回が3回目の挑戦になります。今年度は外国語学部創設50周年の演劇フェスティバルの一環ということもあり、とりわけ関係者の意気込みも高まっています。10月にはジョージタウン大学のロジャー・ベンスキー教授にワークショップで演技指導を行っていただき、学生たちの演技にもますます磨きがかかってきました。

フランス語劇は学生たちにとって、日頃のフランス語の学習の成果を披露する機会として、またフランス文化に肌で触れる機会として、非常に有意義なものです。学科としてもこのような学生たちの活動を今後も支援してゆきたいと考えています。

今回の上演にこぎつけるまでには、関係者のさまざまな苦勞がありました。長大な台詞を必死で覚え、慣れない演技に悪戦苦闘した役者たち。大道具、小道具の制作など裏方として上演を支えたスタッフたち。さらに、丸岡先生、クーロン先生をはじめとするフランス学科の先生がたには熱心なご指導をいただきました。素人ゆえの拙い点もあるかと存じますが、フランス学科の教員と学生が心をひとつにして作り上げた努力の結晶をご鑑賞いただければ幸いです。

フランス学科長
真野 倫平

スタッフ一覧



石田 敬恵(ペリシオン1・2幕)

ペリシオン役の石田敬恵です。ブルジョワのペリシオン一家の初旅行には一体どんな出合いが待っているのでしょうか！？おもしろおかしく楽しい内容になっていますので、笑って楽しんでいただけたら嬉しいです。おバカだけど憎めないペリシオン。こんなお父さん、いかがでしょうか？



山崎 由理佳(マダム・ペリシオン1・2幕)

今回の劇は前回と比べてコメディ要素の多い作品なので、観客の皆さんもより楽しんでいただけるのではないかと思います。キャスト一同も役を為りきってコミカルな演技に挑戦しているので、そういったところを注目して見てください。客席が盛り上がると私たちも一段とやる気が出るので、どうぞ皆さん遠慮せずに声を出して笑って下さい！自分の役については夫であるペリシオンとの掛け合いや、娘アンリエットを取りまく人たちとの掛け合いが楽しいものになるように頑張りたいと思います。



遠山 知里(アンリエット1・2幕)

私はペリシオンの娘、アンリエットを第1・2幕で演じています。明るく、可愛らしい雰囲気が出せたらいいなと思っています。ダニエルとアルマンとの恋にも注目しながら、ペリシオン一家の愉快的な旅と一緒に楽しみましょう。



今井 佑一(アルマン1・2幕)

アルマン役の今井佑一です。アルマンは素直で優しい青年です。アルマンの良さが最大限に引き立つように一生懸命演じます！さまざまな登場人物、特にダニエルとの掛け合いを楽しんでいただけたらと思います。



鈴木 琢磨(ダニエル1・2幕)

今回初めての舞台ですが、ダニエルの役に恥じないよう頑張りたいと思います。アルマンとダニエルの掛け合いを楽しみにしていただきます。

スタッフ一覧



末岡 雄斗(マジョラン1幕)

自分の性格とは違う嫌味な役をやらせていただくのですが、劇のときだけでも嫌味な人間になりたいと思います。劇の内容はフランス語劇ですし難しく感じるかもしれませんが、役の表情とフランス語の音を楽しんでいただけたらなあと思います。



安藤 本来(ジョゼフ)

コマンダンの付き人で、主の女性関係に心を痛めている。ああ、女と男って、、、出番は短いのですが、少しでも皆さんに笑っていただければ幸いです。



朝倉 卓己(少佐(コマンダン))

出番が少ないです。私を見つけてください。皆さんに楽しんでもらえるよう、精一杯の演技を約束します。



高木 理(宿屋の主人)

劇の見所は、ペリシヨンの娘をなんとか自分のものにしようと二人の男が競うところです。自分の役は宿屋の主人です。彼はあまりセリフがないので、物語でのセリフのない場面は動きで存在をアピール出来たらなあと思います。

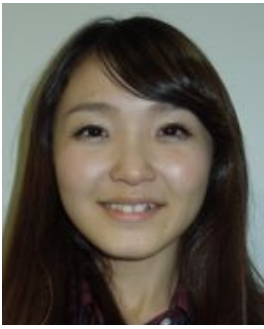


平光 花蓮(ペリシヨン3幕)

劇の見どころ:ペリシヨンの喜怒哀楽の移り変わり

自分の役に対する思い:感情をそのまま表に出すペリシヨンの姿は、私の幼少期のころにそっくりなので、そういう意味でピッタリな役柄でした(笑)フランス留学先での劇の経験を活かして、表現豊かに演じたいと思います。

スタッフ一覧



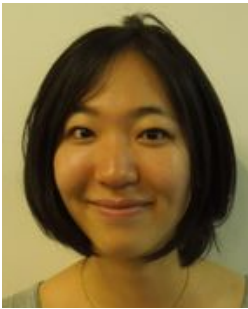
柿原 愛(マダム・ペリシオン3・4幕)

昨年と違い、コメディータッチになっています。役同士のテンポの良い会話やしぐさなどで楽しんでいただけたらと思います。マダム・ペリシオンという役をマダムらしくかつ面白く演じられたらなと思います。



藤沢 美帆(アンリエット3・4幕)

ちょっとお茶目で破天荒なペリシオンと様々なキャラクターが贈るドタバタコメディー！ペリシオンの娘・アンリエットは愛しいあの人との結婚を認めてもらえるのか！？愛らしいアンリエットを楽しみながら見守ってください。



山本 あすか(アルマン3・4幕)

劇の見どころは何と言っても、主役であるペリシオンのユニークなキャラクターです。まぬけだけどどこか憎めないペリシオンに周囲は振り回されてばかり！愉快で魅力的なペリシオンを中心に展開する、個性的な登場人物との掛け合いをお楽しみください。私が演じるのは、そんな彼の娘アンリエットに恋をした青年アルマン。ライバルと競ってペリシオンに認められようと奮闘する、まっすぐなアルマンを精一杯演じます。



栗本 桃子(ダニエル3・4幕)

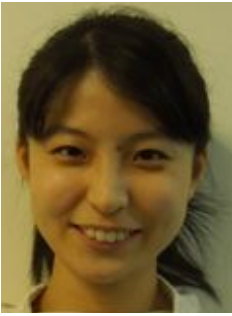
アンリエットをめぐるダニエルとアルマンの対決はストーリーの重要な要素の一つです。二人のバトルの行方に注目してください。



奉城 早希(マジョラン3・4幕)

皆さんこんにちは。マジョラン役(3・4幕)の奉城早希です。マジョランはと一っても憎らしく、口の悪いおじさんです。丸岡教授に「この役は君しか出来ない(君は憎らしく、口が悪い!)」と言っていたので、適材適所な私(マジョラン)をお楽しみください。

スタッフ一覧



児玉 詩織(ジャン3・4幕)

今年でフランス語劇への参加は4回目になりました。今回私が演じるジャンはペリシオン家の召し使いです。独り言の多い彼ですが、ペリシオン家のために頑張ります！



浮田 さくら(ペリシオン4幕)

この劇は喜劇なので、気を楽しんで、フランス語で行われていることを忘れて笑ってもらえたら嬉しいです。今回初めて男性役で、しかも愉快なおじさんの役なので、不安な部分も多いですが、自分の可能性を広げられるように頑張ります。



坂 彩加(総監督)

今回主演のペリシオン役は三人いるのですが、どのペリシオンも個性的です。三人とも違って、練習中からそれぞれ魅力的だったので衣装以外はあえて同じペリシオンを求めず、それぞれが自由でびやかなペリシオンを演じてくれています。三人の表情豊かなペリシオンにご注目ください。他にも良い奴も悪い奴も、様々な人がでてきますが、どれも憎めない、愛らしいキャラクターに仕上がっているので、きっとお気に入りの役が見つかると思います。また、コメディアン・コメディエンヌの誕生する作品となりました。



大道具！

山田紗世美、伊藤みさき、神谷菜々子、横井沙耶
大河原彩子、濱本智子、磯貝真理亜

私たち舞台背景は夏の生き残りの蚊と闘い、季節の変わり目の寒さ葛藤しながら丹精こめて作りました！
役者の周りにも注目してみてください！

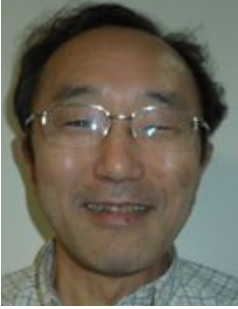


小道具！

日高のり子、森川瑛美、中川裕梨、浦野有美

私たちは初めてフランス語劇に参加しますが、フランス語劇の面白さをどんどん宣伝していきたいと思っています！細かいところも忠実に再現できたらと思っているので小道具にもぜひ注目を！（あと、彼女たちも一幕で登場するのでよろしくよろしく！！）

スタッフ一覧



丸岡 高弘先生(総監督)

毎年、間際まで台詞を覚えず、はらはらさせられていますが、今年はどうでしょう？でも最後は皆、どうにかつじつま(?)を合わせてくれる生徒諸君に深い信頼を寄せる(しかない)教師一同です。拙い演技ですが、これだけの量のフランス語を彼らが自発的に暗記するというのは快挙と形容する他にありません。授業で宿題にでもしたらブーイングの嵐になるでしょう。今年は舞台装置も立派なものができあがりました。山田紗世美さん達、スタッフにも深く感謝します。



ダヴィッド・クーロン先生(演技指導)

今年の「ペリシヨンの旅」はフランス語劇が復活してから3回目の挑戦です。最初は完全な素人として学生たちを指導し始めたら、経験が重なれば重なるほど「挑戦」でなく「閑職」といえるようになるはずだと思っていました。が、自信の持ち過ぎでした！今回も俳優女優たちだけではなく、監督までも素人そのままだとふたつの問題に日々ぶつかりながら確信させてもらいました。実は、今回の「ペリシヨンの旅」という劇はラビッシュというたいへん優秀なフランス劇作家のものであり、彼が生み出したセリフは一個一個非常に深い意味をもたらします。セリフの発声にくわえてそれに合わせた欠かせない表情および喜劇効果などをどうやって学生たちにわかりやすい言葉で伝えればいいのかというのは一つ目の高いハードルとなりました。そして、二つ目の問題は、数多くの登場人物の出入りです。舞台上に立っているときよりも俳優女優たちの出入りするタイミングや雰囲気そのもののコントロールは監督に冷汗を流しました。一瞬いなくなったり、またすぐ戻ったり、舞台裏で待っている登場人物に声をかけたりする場面が多いこの「ペリシヨンの旅」は信じられない工夫をする余儀なくさせました。さらにタスクの難度を上げたのは舞台装置に関わった学生たちの素晴らしいコミットメントもあります。フランス学科の1～4年生が心を込めて作ってもらった装置と衣装と小道具を十分に生かすため、舞台のスペース管理の面でも工夫の必要がありました。

今回の挑戦も大変な量のエネルギーを消耗しました(もっと具体的にいうと脱毛症を加速させた！)が、いろいろと忙しい毎日を送っている学生たちの数えきれない努力、元気であふれた投球、熱情そしてバイタリティーのおかげで、教員として他の教育活動よりずっと貴重な達成感を与えてくれたフランス語劇を多くの来客様が楽しんでいただければうれしく思います。

スタッフ一覧

字幕操作：帆足 有未
佐々木 晋也

照明：森川 智裕
田野 聡子

音響：菱田 和明

大道具運搬など諸々：白石 真己
野原 祥立
岳 卿 (ユエ・チン)

発音指導 (留学生)：Aline DIEU
Arnaud AMRI

その他、フランス学科合同研究室をはじめ多くの方々にご協力いただきました。



あらすじ（ウジェーヌ・ラビッシュ『ペリシヨンの旅』）

パリの馬車製造業者、ムッシュー・ペリシオンは傲慢で身勝手、その上自尊心が強いお調子者。それでもどこか憎めない彼が行く先々で引き起こす数々の騒動に人々は呆れながらも巻き込まれていきます。

【1 幕】パリ、リヨン駅にて

Adieu, France... reine des nations !
さらばフランスよ！諸国の中の女王よ！

初めての旅に浮かれたペリシオンはいつになく慌ただしい。妻と娘アンリエットを急かし、満足気にリヨン駅（パリの大きな駅）にやってきました。彼が発準備のために構内を駆け回っているころ、旅支度をした三人の男性が順に到着します。行き先を決めていない青年ダニエルとアルマン、そして惚れた女性との縁を切るためにパリを離れるという少佐（コマンダン）。二人の青年は両者ともに駅で出会ったアンリエットに恋心を抱き、ペリシオン一家を追いかけて列車に乗り込むことに。偶然集まった旅行者たちがそれぞれの目的をもってスイスの方へ向かいます。

【2 幕】シャモニー、ペンションにて

Ah ! Quel heureux hasard !
何たる偶然なことだろうか！

アンリエットと結婚するため、ペリシオンに気に入られようと手を尽くすダニエルとアルマン。良きライバルとして競い合う二人への評価は二度のクレバス転落事件をきっかけにはっきりと差がついていきます。落下したペリシオンを助けたアルマンと、落ちたところをペリシオンに救われたダニエル…。

果たして、ペリシオンの心を動かしたのはどちらでしょうか。壮大な山岳地帯の下で得た感動を宿の「旅の思い出帳」に記したペリシオンと、それに一言添えた謎多き少佐。ここでの些細なやりとりが事態を思わぬ方向へ導くこととなります。

【3幕】パリ、ペリション邸にて

Il y a des circonstances où l'homme se doit à son honneur !
人には身を捧げなければならないこともある、名誉のために！

長旅から帰ったペリション一家は、ついにアンリエットの婚約者を決定することにします。しかし、本人の意思を尊重しようと夫婦で決めたにもかかわらず、二転三転と意見が翻るペリション。それは偏に彼の「自らの体裁を優先してしまう」性格のため。そんな彼が自らまいた種によって、今度は少佐との「意地と名誉をかけた決闘」が始まることになってしまいます。

【4幕】パリ、ペリション邸および庭園

Il n'y a que les imbéciles qui ne savent pas supporter cette charge écrasante qu'on appelle la reconnaissance.
感謝という押しつぶされそうな重荷を背負えないのは馬鹿だけだそうだからな。

ついに訪れた決闘の日。この決闘をくい止めるべく、そしてペリションを守るべく、それぞれが動き、平然を装って過ごしています。ペリション本人もちろん、できるかぎりの準備を整えそのときを待ちます。しかし、アルマンのある決断は事態を思わぬ方向に導きます。

計画が狂うことで勝ち目のない相手との戦いが現実的になってしまったペリションはついに自らの命と意地を秤に掛けるときをむかえます。

結果的に屈辱的な経験となってしまう今回の事件を経て、彼は大事な娘をダニエルとアルマン、どちらの手に渡すのでしょうか。

Assez, ce voyage....commandé par la reconnaissance.
もうよい。この旅行は…感謝の念が私に命ずるのだから。

「ペリション」という人柄を熟知して戦略的に取り入るダニエル。献身的に尽くすものの裏目に出てばかりのアルマン。ペリションはどちらに本当の「感謝」の気持ちを示すのか、そしてその決めては一体何だったのでしょうか…。